

[成果情報名] やまがた地鶏に対する飼料用米給与技術

[要 約] やまがた地鶏の飼育において、飼料用米を給与することにより購入飼料を大幅に低減できる。

[部 署] 山形県農業総合研究センター畜産試験場・飼養管理部

[連絡先] TEL0233-23-8818

[成果区分] 普

[キーワード] やまがた地鶏、飼料用米、代替

[背景・ねらい]

輸入トウモロコシ価格の上昇による配合飼料価格高騰は、やまがた地鶏生産者の経営を圧迫している。一方、県内で生産が拡大している飼料用米は、飼料成分がトウモロコシに近く配合飼料の代替利用が期待されている。

本試験ではやまがた地鶏飼育における飼料費低減を目的に、肥育後期に配合飼料の一部を飼料用米に代替し、発育性及び経済性に関する調査を行った。

[成果の内容・特徴]

1. やまがた地鶏に、配合飼料に加え飼料用米（粳摺り後の未選別玄米）を給与する場合、雄は 80 日齢から配合飼料の 50%まで代替でき、35%の代替では 50 日齢から給与できる。雌は 50%で 80 日齢から給与できる。（図 1、図 2、表 1）
2. 自家産の飼料用米を活用することにより、雄で 28%（50 日齢から 35%代替）から 23%（80 日齢から 50%代替）、雌で 22%（80 日齢から 50%代替）の配合飼料購入量を低減できる。（表 2）
3. 飼料用米を活用したやまがた地鶏肉の食味官能評価に差はない。（図 3、4）

[成果の活用面・留意点]

1. 「やまがた地鶏」飼養管理マニュアルの改訂に活用。
2. 飼料用米は、配合飼料と混合して給与すること。

[具体的なデータ]

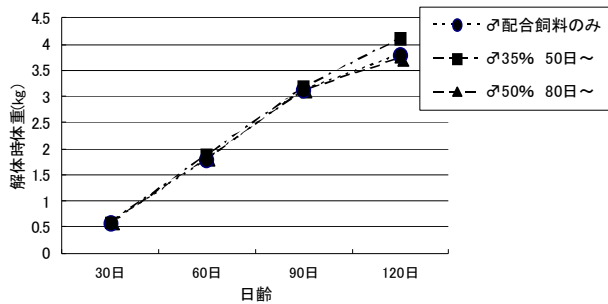


図1 雄区の体重推移

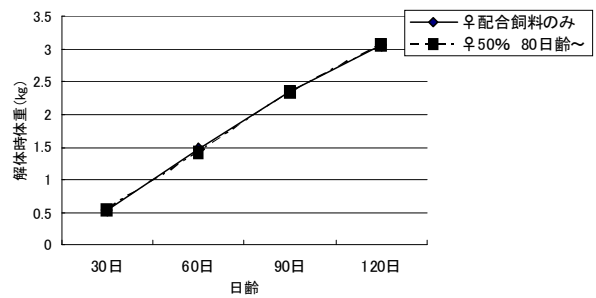


図2 雌区の体重推移

表1 発育成績、飼料要求率及び解体成績

性別	代替割合、開始日齢	体重 (g)		増体量 (g/羽)	飼料要求率	飼料費(円/正肉1kg)	解体成績					
		試験開始時	解体時生時体重				モモ (g)	ムネ (g)	ササミ (g)	正肉重量 (g)	歩留り (%)	腹腔内脂肪割合 (%)
雄	配合飼料給与のみ	592	3,800	3,208	4.60	939	855	429	119	1,403	36.9	1.89
	50%、80日齢以降	592	3,870	3,278	4.72	706	785	381	107	1,273	32.9	3.15
	35%、50日齢以降	595	3,810	3,215	4.34	682	768	396	114	1,278	33.5	2.94
雌	配合飼料給与のみ	539	3,058	2,519	4.85	777	595	382	94	1,071	35.0	4.05
	50%、80日齢以降	557	3,074	2,517	5.09	635	614	379	93	1,086	35.3	4.17

注)飼料摂取量、飼料要求率は29日齢～解体時までの成績、歩留り、腹腔内脂肪割合は解体時生体重(120日齢)に対する割合
増体量及び飼料要求率は試験開始時以降の成績、飼料費=飼料摂取量(kg)×飼料単価(円/kg)/正肉重量(kg)
配合飼料63.6円/kg、飼料用米0円。有意差なし。

表2 配合飼料利用低減効果

性別	代替割合、開始日齢	1羽当りの給与量 (kg)			低減割合 (%)
		配合飼料	飼料用米	合計	
雄	配合飼料給与のみ	14.8	—	14.8	—
	50%、80日齢以降	10.7	3.2	13.9	23
	35%、50日齢以降	11.1	4.4	15.5	28
雌	配合飼料給与のみ	12.2	—	12.2	—
	50%、80日齢以降	10.0	2.8	12.8	22

注) 試験期間29～120日齢の配合飼料利用低減効果

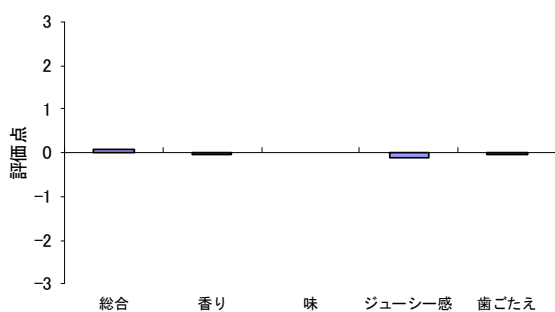


図3 雄飼料用米50%給与ムネ肉の食味官能評価

注)肉の各々の評価をかなり良い(3点)、やや良い(2点)わずかに良い(1点)差が無い(0点)わずかに悪い(-1点)、やや悪い(-2点)、かなり悪い(-3点)とした場合の平均点。歯ごたえに関しては、かなり硬い(3点)、～かなり柔らかい(-3点)の段階評価。

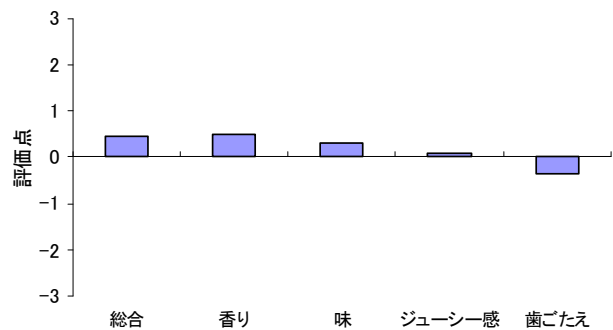


図4 雌飼料用米50%給与鶏ムネ肉の食味官能評価

注)肉の各々の評価をかなり良い(3点)、やや良い(2点)わずかに良い(1点)差が無い(0点)わずかに悪い(-1点)、やや悪い(-2点)、かなり悪い(-3点)とした場合の平均点。歯ごたえに関しては、かなり硬い(3点)、～かなり柔らかい(-3点)の段階評価。

[その他]

研究課題名：増体改良型やまがた地鶏における飼料費低減技術の開発

予算区分：県単

研究期間：平成25年度(平成25～26年度)

研究担当者：佐藤文博、飯野幸弘

発表論文等：